

NAGO OJISAN



第6のおじさん

レザーショップ NEON経営

Jullyさん 45歳 天秤座

職業：レザージャケットシーカー

趣味：仕事



立ち上がれ、名古屋のおじさんたち

「おじさん」
なんて哀しい響きでしょう。

「おじさん」と聞いて爽やかなイメージを抱く人はいない……。おそらくほとんどの方は「クサイ」「古い」イメージで、時には「老害」などという冠もついてくるでしょう。

自分はそのな「おじさん」ではない、まだ違う！と多くのおじさんは思っあがいていることでしょう。

でもいいんです。「おじさん」でいいんです。「おじさん」だって輝くときがある。光っているんです！（脂で）

「おじさん」は一生懸命働いている。「おじさん」が考えた商品が、サービスが、街を、生活をつくっている。そんな働く「おじさん」にスポットライトを当ててみようではないか。新しい一面が見えてくるかもしれない。

名古屋で働く「おじさん」マガジン NAGO OJISAN 編集長の言葉
令和三年

メロンのことも
革製品並に
詳しいです

おじさんの 仕事



— お仕事はどんなことを？

製造小売販売、革を使った諸々の商品を扱っています。レザージャケットからカバン、靴もあるし、修理もやります。ユーズドの仕入れが6割、オリジナルアイテムが4割くらいかな。オリジナルはレザーだけじゃなくてTシャツとか靴とか何でも作っています。今の店NEONは3年目ですが、ミシンはざーっと使っています。建築関係の仕事をしていたときも出張先にミシンを持っていった商品を作っていました。

— 前職は建築をされてたんですか？

11年くらいやっていました。アスベスト除去業者として、東京に乗り込んでスパーゼネコンの下でやっていました。現場も行くし施工企画書も作るしキヤドも引いてたし。その前はメロンを売っていました。27歳くらいかな。実はこのときもDTKというお店をやっていた、今と同じように革を扱っていました。お店が終わったらそのまま市場でメロンを売る。



革用のミシンを手際よく操るJully氏。裁縫技術はそこの主婦より格段に上。

— 体力半端ないですね

「メロンのことならJullyに聞け」といわれるほど名を轟かせました！バナナも10房入ってるのを1000ケースは売ってましたからね。どの仕事も全力投球、体力の限界が来るまでやりきります。先日商品を車に積んで全国行脚してきました。好評でしたよ！みんなが歓迎してくれて美味しいもの食べて太りました。

おじさんの 中身

カバンの



この牛革のカバンももちろんオリジナル、3年毎日肌身離さず持っています！
手帳は2冊、スケジュール管理と打ち合わせの大事な内容をメモするのに欠かせない。
スタッズ付きの方は気に入ってますがまあ重いですよ（笑）
修理に必要なパーツもなんだかなだカバンに入っています。

おじさんの プライベート

— プライベートありますか？
もう仕事がプライベートです、仕事が楽し
みになっちゃった。大変でもしょうが
ないというかやらされ感がないから。
それ以外だとたまーに友人と飲むくらい
ですかね。
— 仕事が好き、どんなところが？
例えば修理にしてもありえない修理をする
んです。ものすごい破損でもなんとか治
す、作り変える。袖が短いのも延長する
し。だから時間がめちゃくちゃかかる。
出来上がるまでは正直苦痛もあるけど、出
来上がったときの「よし！」って気持ち
と、「うわー、ありがとうございます」つ
て喜んでもらえるお客さん、そしてお金を
もらったときの達成感がすごすぎてがんば
れるんですよ。

おじさんの全盛期 あの頃

— 全盛期っていつですか？
17歳ですね。高校のマドンナに告白され
て付き合いました。数ヶ月でしたけど。
当時はラグビー一筋でした。相手がどん
なに大きくても突進してました、怖いも
の知らずでした。タックルのし過ぎで骨が剥がれて入院し
て手術したことも。ラグビーは気合だけ
でやってましたから！
— すごすぎますね……
他にもエピソードありそう
25歳の時もモテました。古いビートル乗っ
て、オシャレだったんです、生活が。お金
はなかったけど髪の毛あったし（笑）
20時までレザラーの
店やって、ご飯食
べて、夜中の3時
から朝の10時まで
市場で働いて、週
末はライブハウ
ス。
奥さんと出会った
のもこの頃です。



髪があって
モテた頃



おじさんは未来を見つめる……。レザーに囲まれて……。

— 今後の夢って？
僕、イギリスに住んで店をやりたい
んです。本場に行きたいって
思いがやっぱり強い。来年は
イギリスに行ってカムデンマー
ケットで一週間だけのオリジナル
のポップアップショップをや
りたいと思っています。憧れの
イギリスでポップアップをや
ったという経験、事実は絶対いい
方向につながるから。
だからオリジナル商品を強くし
ていきたいと思っています。い
つかイギリスからブランドを出
したいですね。

おじさんの

夢

OJISAN'S DREAM



— カッコいいですね。
なにか若者にメッセージを
恐れるべからず、夢は一直線
で。自分は若い頃からずっと
そうやって生きてきました。
その分家族に我慢させてきた
なあとも感じるから難しいで
すけど。紆余曲折あったし、
でもアパレルにずっといな
かったから見えたものもあっ
た気がします。焦り過ぎたら
いけないという先輩の助言も
良かったのかもなあ。

今日の おじランチ

WORKING OJISAN'S LUNCH



ランチは大須の定食
屋さん smash
head の唐揚げ定
食。もともとハン
バーガー屋さんで平
日は定食を、休日は
ハンバーガーを提
供。味の良さはもち
ろん、「地域密着型
の大須を愛する気持
ちは俺と一緒に！」と
の思いから昼と晩、
1日2回食べること
もあるお気に入りの
お店。

エイジング 革は良くても 老いは隠せず

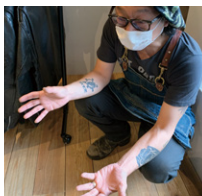
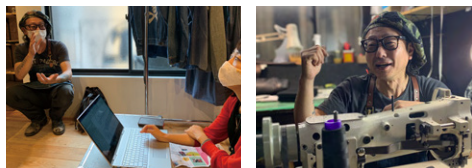
／ 満身創痍頑張ります ／



おじさんの闘いは続く

編集後記

おじさんはアンニュイな笑顔で語った。時にはろくろを回しながら……。
世界中のレザーファンのために、全国行脚し、昼も夜もミシンの前でセンスと腕を磨き続けている。いつもおしゃれ心を忘れず、実はとても地道に戦っている。
飛び込むことを恐れない想像を超える精神力と体力、ほんとおじさん？ でも言おう、ありがとうおじさん。



名古屋で働く『おじさん』マガジン
NAGOJISAN vol.06

企画・制作・発行
株式会社シーエムバー

取材・文 / 渡邊享子
撮影 / 青山大悟、江口桃子
デザイン / 廣瀬文洋
編集長 / 渡辺じろう

